



～「これからできることに精一杯取り組んでいこう」～

校長 三田 和弘

今まで経験したことのない暑い夏でした。8月25日(金)から、82日間の2学期がスタートしました。前半は葵流祭が行われ、秋の深まりとともに学習の充実、3年生は受験校の選択と、慌ただしい中ですが自分を見つめ、地道な取り組みが大切となる学期です。

そんな中、突然訪れた多数の体調不良を訴える生徒。全国的にインフルエンザや新型コロナウイルス感染症が増える中、本校も例外ではありませんでした。学級や学年閉鎖の措置を執らざるを得なかった事に対し、保護者の皆様や生徒たちにはご迷惑をおかけしたことと思います。特に葵流祭体育の部を延期したことは、地道に練習を重ねてきた、3年生をはじめとする多くの生徒の士気に、大きな影響を与え申し訳なく思っています。

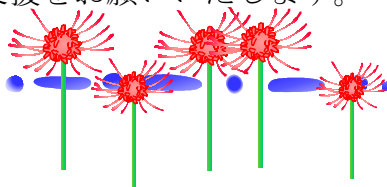
「失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ」

これは“パラリンピックの父”と呼ばれるイギリスの医師、ルードウィヒ・グットマン博士の言葉です。失ったことを受け止めつつも、残った体の機能をどのように最大限に生かすかを考えることが大切なのだ。「過去は変えられないけど、自分と未来は変えることができる」と受け止めているパラアスリートも多いようです。

この言葉を今の私たちに当てはめると、「これからできることに精一杯取り組んでいこう」ということだと思います。今できることは何かを考え、最大限に生かしていくこと、そのために全力を尽くすことが大切ではないかと思えます。

生徒たちには、過去を振り返るよりも、今できることを考え、前を向いて、進んでほしいと願うばかりです。自分を高めていく過程では、常に何かの形で壁にぶつかるものです。他人から見れば取るに足りない小さなことでも、本人にとっては大きな場合があります。そんなときでも、投げやりになったり、後退したりしないで前に進もうとする努力を続けてほしいです。

体調不良を訴える生徒の数は徐々に減り、葵流祭に向け、新たなスタートを切っています。学校中に美しい歌声が響き始めました。しかし、マスクをしたり、熱中症や運動のためにマスクを外して活動したりとTPOに応じて自分で判断し、生活する場面が多くなっています。学校ではできうる対策を取りつつ、生徒が笑顔で明るい、また安心・安全な学校づくりに邁進していきたいと考えています。引き続き、保護者、地域の皆様のご支援をお願いいたします。



葵流祭文化の部・体育の部

3年生が中心となり、本番に向けて練習に取り組む生徒の姿が浮かびました。これまでに準備を進めてきた生徒の気持ちを考えると、残念ではありましたが本番の3日前に延期を告げることとなりました。まず、生徒の体調を第一に考え延期としました。

10月6日（金）文化の部と体育の部を同日開催いたします。気持ちや体調も万全にし取り組めるよう全職員で支援いたします。改めて、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

また、「すぐーるメール」でもお伝えいたしましたが、引き続き健康観察のご協力をお願いいたします。体調が優れない場合は、早期に適切な対応と休養をとり無理して登校せずに体調を整えてください。

令和5年度 伊豆市立天城中学校

葵流祭・体育の部&文化の部



挑め

～1人1人が心を燃やし、勝利の道へ～

開催日 10月6日（金）